

# 卒業論文の執筆と提出について（秋学期）

2018/10/17  
心理学部

## A. 卒業論文の提出

1. 提出期間：2018年12月18日（火）～20日（木）の3日間
2. 提出時間：各日の12時30分～15時30分（厳守）
3. 提出場所：京田辺キャンパス知証館(SJ) 109番実験室
4. 提出部数：2部（提出しないが試問会準備のためにもう1部各自のコピーも用意する）。  
綴じ方は後述「B. 卒業論文の綴込ファイル」を参照。
5. 注意点
  - \*共同執筆の場合は、必ず全員揃って提出しなければならない。
  - \*提出時、やむを得ない事情で遅刻・欠席する場合は、それを証明する書類（伝染病の診断書、公共交通機関の延着証明など）を提出しなければならない。
  - \*一度提出した卒論を修正して再提出することは認められない。
  - \*卒業論文の執筆形式は、「D. 卒業論文執筆要項」を参照。
  - \*卒業論文の他に、「E. 梗概」で説明する「梗概」を作成して指導教員に提出しなければならない。
  - \*その他、不明点や形式確認はゼミの指導教員に行う。
  - \*卒業論文試問会は2019年1月28日（月）に、ポスター発表会は2019年1月26日（土）に、それぞれ実施する。試問会とポスター発表会の両方に出席しなければ卒業論文の単位は認められないので、必ずスケジュールを空けておくこと。

## B. 卒業論文の綴込ファイル

1. 綴込ファイル：大学生協製 A4 判用紙製ファイル（イエロー）、綴込芯が左側 2 点のものとする（A4 判の左側長辺を綴じる）。
2. ファイルの表紙：心理学部規定の「卒業論文表紙用紙」を SJ 実験準備室で実習助手から受け取り、糊付けして必要事項を記入する。
3. 注意点
  - \*ファイルの形式、色、綴じ方が規定に沿わないものは受け付けない。
  - \*綴込のための穴あけパンチ作業は、各ゼミ室に備え付けのパンチで行うこと。
  - \*ファイルが規定に適合しているか否かは、指導教員もしくは SJ 実験準備室に尋ねること（表紙の見本は SJ 実験準備室で参照可）。

## C. 卒業論文の執筆作業

1. 使用できる PC：卒業論文執筆・印刷のために、心理学実験室の PC の使用を禁じる。個人所有の PC、ゼミ室の PC、情報処理教室の PC 等を使用しなければならない。
2. コピー機利用：卒業論文提出において、SJ および香柏館低層棟実験準備室設置のコピー機の使用は禁じる。コピー機利用を希望する者は、SJ 実験準備室で生協コピー機のプリペイドカードを借りることができる。
3. ゼミ室在留可能時間：在留可能時間を 8 時～22 時まで（月～土）とし、それ以降の在留、

泊まり込み、休日の在留は原則として禁止する。やむを得ない事情で残留を希望する場合は、予め指導教員に相談の上、残留前日の正午までに香柏館学部事務室（香柏館実験準備室ではない）に必要書類（「構内残留・入構願い」）を提出しなければならない。なお、両実験準備室および学部事務室は 17 時に閉室する。

## D. 卒業論文執筆要項

### 1. 執筆要項

- \*卒業論文は B. で説明した綴込ファイルの中に、内表紙、目次、本体(要約・本文・引用文献)の順に綴じて提出する。
- \*内表紙には表題、学生 ID、氏名を記し、ページ番号は要約を第 1 ページとし、第 2 ページから本文を始め、それ以降は引用文献の最終ページまで付す。
- \*必要に応じて本体の後に付録を付けてもかまわないが、付録を見なくても内容がわかるように本文を書く。
- \*卒業論文はワープロソフトで作成し、以下の要項に従わねばならない。

#### 【和文の場合】

**用紙**：A4 判の白紙を縦長で使用する。

**字数**：1 枚あたりの字数は 1,000 字 (40 字×25 行) で、余白は上 30mm、下 30mm、左 30mm、右 15～20mm 取る。1 行あたり 40 字に満たない場合は右余白を 15～20mm の範囲で調整して 40 字にする。

**ページ数**：片面印刷で 12～20 ページとする。なお、ページ数に含まれるのは「要約～引用文献」までで、表紙、目次、付録はページ数に含まない（付録には「付録-1」のように別のページ番号を付す）。特別の事情がある場合に限り、プラス 10 ページを上限として超過を認めるが、不必要に超過した場合は書き直しの対象となり得る。

**文字**：フォントサイズ 10.5～12 ポイントとし、本文のフォントは明朝体とする。本文中で英文を用いる際には下記「英文の場合」のフォントに従う。

#### 【英文の場合】

**用紙**：A4 判の白紙を縦長で使用する。

**語数**：1 枚あたりの語数は約 350 語とし (30 行を目安とする)、本体の総語数が 4,200～7,000 語の範囲に納まるようにする。余白は上下 30mm、左 30mm、右 20mm とる。

**ページ数**：和文の場合と同様とする。

**文字**：フォントサイズは 10.5～12 ポイントとし、本文のフォントは Times New Roman あるいは Century とする。本文中で和文を用いる際には上記「和文の場合」のフォントに従う。

\*上記以外の執筆規定は、基本的には日本心理学会の“執筆・投稿の手引き”に準ずるが、詳細は各ゼミ指導教員の指示に従うこと。

\*日本心理学会の“執筆・投稿の手引き”は SJ 実験準備室に置いてあるが、下記 URL でも閲覧できる。

[http://www.psych.or.jp/publication/inst/tebiki20150910\\_fixed\\_compress.pdf](http://www.psych.or.jp/publication/inst/tebiki20150910_fixed_compress.pdf)

\*MS-Word の雛形ファイル（和文のみ）を下記学部サイトにアップロードするので、適宜ダウンロードして利用してもかまわない。ただし、最終的な体裁は各自で確認すること。

[https://psych.doshisha.ac.jp/lecture\\_support/](https://psych.doshisha.ac.jp/lecture_support/)

## E. <sup>こうがい</sup>梗概

1. **梗概とは**：卒業論文の梗概は、学部紀要『同志社心理』に掲載するための原稿である。
2. **提出方法**：卒業論文提出時まで、後述する形式で保存したワープロソフトの電子ファイル（メール添付ファイル、USB メモリなど）を指導教員に提出しなければならない。詳細な提出方法などは各教員の指示に従うこと。
3. **内容**：卒業論文の要約と同様でかまわないが、以下の形式に従って適宜修正する。なお、卒業論文を英文で作成した場合は、以下の形式に従い和文で作成する。

\*A4 縦、1 行につき 40 文字。

\*卒業論文タイトルから所属ゼミ名まで、全体として 12 行以上 14 行以内で作成する（梗概本文で 12～14 行ではない）。

\*フォントサイズは 10.5～12 ポイントとする。

\*1 行目に卒業論文のタイトルを記してセンタリングする（英文作成者に限り英文タイトルを 1 行目、和文タイトルを 2 行目に併記する。英文タイトル分があるので 1 行分増した形式となる）。

\*2 行目は空白行とする（英文タイトルの場合はこの行が和文タイトルになる）。

\*3 行目は右寄せで執筆者名を記す。執筆者が複数の場合は、名前の間に「・」をはさみ、学生 ID 順に並べる。学籍の年度が異なる場合は、年度の早い者から書く。

\*4 行目から梗概本文を書く。

\*最終行に右寄せでカッコ内にゼミ名を記す。たとえば（新島ゼミ）というように指導教員の姓のみを記す。

\*提出するファイル名は、たとえば「1H1530543 梗概.docx」のように自分の「学生 ID」と「梗概」を明示し（ファイル名の学生 ID と“梗概”との間にスペースは不要、学生 ID は半角）、共同執筆の場合は学生 ID の最も若い者の学生 ID のみとする。

\*執筆にあたり、次の見本を参考にすること。

### 卒業論文タイトル

同志社太郎・心理雪花子

卒業論文の梗概は、「同志社心理」に掲載するために提出してもらった原稿です。内容は、卒業論文の本体につける要約と同じでもかまいませんが、目的、方法、結果、結論の全てを含んでいる必要があります（引用文献は不要です）。卒論本体と同じく必ず提出前に指導教員のチェックを受けて下さい。適当なところで段落を設けてもかまいませんが、図表を含めることは出来ません。1 行目にタイトル（提出した卒業論文と同じもの）、2 行目は空けて、3 行目に右寄せで執筆者名、4 行目から本文とします。本文最終行右端にゼミ名をカッコ内に記入する。

「同志社心理」は同志社大学心理学部の皆さんに配布されるだけでなく、全国の大学や心理学関係の研究所に送付され、学外の多くの人にも閲覧されます。したがって、内容などに誤りがないよう十分に気を付けて下さい。

（新島ゼミ）